

京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書

平成24年 6月18日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局 工学研究科

職 名 教 授

氏 名 銚 井 修 一

助成の種類	平成24年度 ・ 国際会議開催助成		
事業内容	第5回建築物理国際会議 (英文) 5th International Building Physics Conference 2012 (IBPC 2012), Kyoto		
開催期間	平成24年 5月28日 ～ 平成24年 5月31日		
開催場所	京都大学百周年時計台記念館		
参加者	総数 218名	内訳 国内 67名 海外 151名	
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有(Proceedings)		
当財団の助成について	事業に要した経費総額	10,675,883 円	
	うち当財団からの助成額	1,500,000 円	
	その他の資金の出所	(機関や資金の名称) 会費、公益財団法人大林財団	
	経費の内訳と助成金の用途について		
	費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)
	会場費	1,919,400	1,500,000
	生協関係(Proceedings等)	2,030,726	0
	Welcome Party、昼食関係	1,843,652	0
	学生バイトなど謝金	1,856,020	0
	カード手数料、送料、通信費等	1,225,710	0
招待者旅費等	860,000	0	
企業展示、エクスカーション等	301,443	0	
国内委員会、雑費等	638,932	0	
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 貴助成には大変助けられました。おかげさまで、企業からの寄附に頼らずに国際会議を開催することができました。本当にありがとうございました。		

平成24年度京都大学教育研究振興財団国際会議開催助成 成果の概要 / 銚井 修一

本国際会議「第5回建築物理国際会議：5th International Building Physics Conference 2012 (IBPC 2012), Kyoto」は、IABP (International Association for Building Physics)が母体となり3年に一度開催する建築物理に関する国際会議である。第1回 2000年・Eindhoven、第2回 2003年・Leuven、第3回 2006年・Montreal、第4回 2009年・Istanbulに続き、京都会議がその第5回目にあたる。今回は、平成24年5月28日～5月31日に、京都大学百周年時計台記念館で開催された。

温暖化ガス排出およびエネルギー消費の削減が強く求められる一方で、室内環境の健康性、快適性への要求が少子高齢化の進行に伴い重要な課題となっている。そのような状況において、本国際会議 IBPC は建築物理に関する研究、応用を行う研究者、実務家、建築家、学生などが集まり、最新の情報に関して意見交換を行うとともに、得られた成果を広く社会に還元するための活動を行うプラットフォームとしての役割を果たしてきた。今回の会議では、“The Role of Building Physics in Resolving the Carbon Reduction Challenge and the Promotion of Human Health in Buildings.”をメインテーマとし、従来のトピックスを中心に、日本での開催ということもあり、エネルギー問題、環境問題が急速に浮上しつつあるアジアに焦点を当てたトピックスを加えた。海外からは34カ国・151名が、日本国内からは67名の方が参加し、活発な発表、意見交換を行った。会議の4日間に、一般講演に加え、27日のWelcomeパーティ、28日の開会式、5月30日のIABP総会とバンケット、5月31日(木)の閉会式、ツアーが催された。

開会式では、小森悟前工学研究科長から歓迎の挨拶と京大の紹介をいただいた後、IABPの現会長であるDenmark Technical University・Carsten Rode教授より、「建築物理の役割と今後」に関するKeynote speechがなされた。また、2日目には近畿大学工学部長・岩前篤教授から「健康とエネルギー問題」、3日目にはSeoul National UniversityのKwang Woo Kim教授より「高層ビルにおける煙突効果」に関するKeynote speechをいただいた。

テクニカルセッション 中心となる一般講演では、「建築材料」「建物とエネルギー効率」「温熱快適性、室内気候、安全性」などの従来のテーマに加え、「文化財の保存」「アジアに関する特別セッション」が設定された。約400編のアブストラクト投稿があり、査読の後360編のフルペーパー投稿が認められた。最終的に190編のフルペーパーが本文審査を通り、プロシーディングに納められた。会議当日は4室で並行して論文発表がなされ、活発な議論が行われた。

テクニカルツアーとしては、東本願寺の改修工事現場の視察と積水ハウス総合研究所見学の2つを催した。前者は工事中ということもあり参加者を15名前後に絞らざるを得ず、小さな見学ツアーとなったが、寺院の小屋裏などの見学をできる機会は大変珍しく参加者には大変好評であった。積水ハウスの見学会は技術研究所における専門的な実験、活動についての活発な質疑応答と日本の住宅、生活様式に対する様々な質問が出され、有意義な見学会であった。

バンケットは平安神宮近くの会場で開催され、170名前後の方が参加された。会は雅楽の舞と演奏で始まり、京都副市長の挨拶、前IABP会長のHugo Hens名誉教授の挨拶の後、庭園を愛でつつ和食を楽しんだ。料理があつという間に平らげられ、主催者側は冷や汗をかきながらであったが、会話の弾んだ賑やかな会となった。

IABP 会期中には主催団体(協会)であるIABPのBoard Meetingがもたれ、今後の方針、メンバー交代、IABPの規約、次回開催国などについて議論され、30日のIABP総会の場で、次期理事の承認、次回開催国(イタリア)が決定された。

閉会式は31日昼過ぎに行われ、最後に、時計台百周年記念ホールにおいて全体の集合写真を撮った。

貴財団からいただいた国際会議開催助成金150万円は、時計台記念館を4日間フルで借りる会場費に充当させていただいた。おかげさまで、受付、一般講演、総会、企業展示、昼食および付随する小さな会合を含め全て一箇所で執り行うことができ、大変効率的な会とすることができた。また、企業からの寄附を募ることなく無事終えることができましたこと、改めて感謝致します。



百周年記念ホールにおける記念写真



京大正門の立看